

## 珊瑚ツーリズムの創造

〒851-1315  
 長崎県長崎市高島町2709番地5  
 電話:095-896-3510 090-9608-7082  
 E-mail:takashima.bt@joy.ocn.ne.jp  
 http://nagasakiweb.fc2.com/de/



LOVE BLUE助成

1年目

実践



海浜清掃で集められた流木

1年間で回収した ゴミ袋	200袋
啓蒙活動対象者 延べ人数	1,376人
今年度計画の達成度	100%
活動の全体目標に対する 達成度	100%

### 苦労した点と工夫した点

#### ■ 苦労した点

シュノーケリング体験者を案内中に回収した海中ゴミが、そのあとの案内の際に邪魔になった。

#### ■ 工夫した点

左記の問題を克服するため、浮き輪やボードを活用。浮き輪やボードに網を付け、回収したゴミを網に入れることで問題解決を図った。



#### 課題

どのようなシステムの構築ができれば、継続可能なシステムとなるのかが、「珊瑚ツーリズムの創造」の課題だった。啓蒙活動は地域小中学校の授業の一環とすることが課題だった。

#### 目標

継続可能な環境保護システム「珊瑚ツーリズム」を完成させることで、モデル事業的な役割を担うことを目標として取り組んだ。

#### 活動内容と成果

- 海浜の清掃活動は定期的実施、相当数のゴミの回収を実現した。ゴミ袋に入りきらないゴミも多数存在していたが、行政と協力して処理に至った。
- シュノーケリング体験者が海中に潜水しゴミを回収するというスタイル

で、進んで環境保全活動に貢献するシステムの構築ができた。当然その指導にあたる協議会メンバーも海中ゴミの回収を行った。●地域の小中学校にて環境保全活動の出前講座を実施。協議会メンバーはもちろん、在校生や教諭、学校職員のほか父兄も参加。講座終了後に全員で海浜のゴミを回収した。



シュノーケリング体験者が海中のゴミを清掃

#### 今後の展望

珊瑚ツーリズムがモデル事業となるに必要な二つの条件を解決する。一つは広報力。ダイレクトメール、マスコミミックスとSNSを生かし解決を図る。もう一つは時間。活動を続けることでシステムの有用性を検証する。